

# 平成 27 年度 上越市 家庭科部 活動報告

部長 品田やよい

## 1 研究主題

児童生徒が生活の自立を目指し、進んで実践する態度をはぐくむ支援の工夫

## 2 研究の概要

上越市は小・中学校合同で教育研究会を組織し、家庭科部では小学校と中学校が隔年で授業を公開、研修している。今年度は平成 26・27 年度 新潟県中学校教育研究会指定 技術・家庭科上越地区 教育研究発表会と共催で実施した。会場校の中学校の授業公開に向け、取組や指導案検討を行った後、授業公開、参観、協議会を実施、指導者からの指導で締めくくった。

## 3 研究の実際

(1) 授業公開 平成 27 年 11 月 11 日 (水)

① 授業者 上越市立城北中学校 齊藤 直美 教諭

② 題材名 B 食生活と自立 「中学生の食生活と栄養」

③ 本時のねらい

ア 栄養素の観察実験や話し合いを通して、栄養素を意識しながらよりよい食生活を送ろうとする。  
(関心・意欲・態度) イ 栄養素を上手に摂る工夫を考えることができる。(工夫・創造)

④ 展開

- ・キャベツやジャガイモなどの切り方や加熱の有無による栄養素(本時はビタミンC)の溶出量の変化を実験により確かめる。
- ・実験結果を基に「栄養素を上手に摂るためにはどのような工夫をして食べたらよいか」という課題に対し、小グループで個人の意見を出し合い、全体交流を通じ自分の食生活と関連付けながらまとめる。



⑤ 授業の成果と課題(研究協議会より)

- ・可視化実験は、既習の栄養素への理解を深めるために効果的であった。栄養素の存在を目で確かめたことにより課題に対して、栄養素の種類や性質を踏まえた上で「切り方」や「調理方法」、「食べ合わせ」などの視点から様々な意見が提案されることにつながった。
- ・グループでの意見を全体で共有するための方法には更に工夫が必要である。グループでの白熱したやり取りや深まり、個々の様々なアイデアなどが、全体発表では存分に共有されにくい。

(2) 研究協議会

研究主題の下「生徒の考えを発展させていくためには、学び合いの授業をどのように位置付けたらよいか」について、中学校家庭科の内容「家族・家庭と子どもの成長」「食生活と自立」「衣生活・住生活と自立」「身近な消費生活と環境」ごとに、意見を出し合った。

(3) 指導

上越教育大学大学院学校教育研究科准教授 佐藤ゆかり様から、以下の点について具体的な御指導をいただいた。家庭科の成立に着目した教科の本質を踏まえた授業とは、育成すべき資質・能力を踏まえた教育課程の構造化、様々な栄養素を可視化する実験方法の紹介

## 4 成果と課題

昨年度に続き、日常の食事と食生活の分野での中学校の公開授業をもとに、各会員の実践を踏まえながら、研究協議会を行うことができた。より主体的に学習内容を実生活に活用できることを目指し、個々の考えを深めたり作り上げたりするための学び合いの工夫や小集団での交流の位置付け等について検討することができた。研修成果を生かし、自らの授業改善に臨むとともに、児童生徒一人一人の自立とよりよい生活の実現をめざして、さらに実践を積み重ねていく。